

ここが問題！リニア新幹線

2016. 9. 3 NO. 46

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

川崎市港湾局がリニア残土搬送先について最終報告(9/1)

但し候補地3埠頭の場所隠す。船で海上輸送を前提



9月1日開かれた川崎市議会環境委員会で、市港湾局はJR東海から依頼されたリニア梶ヶ谷非常口から排出される建設発生土（工事残土）151万 m^3 の搬送先について、最終報告を示した。リニアの残土処理について、沿線では例外的に貨物線により市臨海部に搬送し、船に積み替えて処分先に海上輸送するというJR東海の計画を受けて、搬送先の臨海部埠頭調査を行っていたもの。昨年3月に中間報告、今年3月に最終報告が行われたが、これまで最終報告は市議会にも示されていない。（写真は梶ヶ谷の立坑現場）

1日示された最終報告書では搬送先3か所の埠頭について、「JR東海は、本調査結果を参考に具体的な運搬計画等の検討を進めています。また、本調査には、公にしないことを条件に提示された臨海部に立地する企業の情報も含まれており、現時点で公にした場合に両者が不利益となるおそれがあるため、積出候補地が特定できる記述については、非開示（■）とします」との記述があり、名称については■で塗られている。リニア新幹線建設は整備新幹線を作る公共事業であり、アセスについてもこれまでの新幹線事業と同じ手続きが取られてきた。また、市港湾局の説明では、今回の候補地には川崎市所有の埠頭も含まれている可能性が強く、決して民・民の問題ではない。

14両編成の貨物列車で一日10往復、4千 m^3 を臨海部に輸送

候補地①、②、③のうち、①、②については、直接埠頭まで、武蔵野南線から引き込み線を経由して、建設発生土（コンテナ）を埠頭まで運び、港に滞留させずに船に積み替えるケースと、臨海部に貨物線の中継地を設け、そこからコンテナダンプ車で埠頭に運び方法が併記され、交通混雑や交通安全上の課題について説明されている。③についてはどうも引き込み線が無いらしく、中継地からのコンテナダンプによる埠頭までの搬送のみが記されている。委員会では、調査費用（3千万円）は全額JR東海が支出したが、市がコンサルタント会社に調査を依頼した結果、1千9百万円かかったとの報告もあった。

臨海部埋立への残土利用は？市港湾局長は「JR東海に市民への情報公開を求める」

環境委員会の報告に対し井口まみ委員（多摩区選出）の質問に対し、市港湾局は以下のように回答。

- 委員会への報告が遅れたのは、臨海部の調査が終わっても、そこまでの市街地の運搬経路について整合性がないと候補地を挙げた意味がない。JR東海が8月から候補地と梶ヶ谷を結ぶ市街地部分の経路の交通量調査を始めたことで整合性があると判断し公表を決めた。
- 4千 m^3 は梶ヶ谷の1日の発生土予想であり、151万 m^3 とはリンクしない。
- 1日10往復が可能かどうかJR貨物のダイヤとの整合性ははかっていない。
- 「調査が終わったから終わりということではなく、今後もJR東海に対し情報公開を求めていくし、市民にも伝える」（酒井浩二港湾局長）

超党派の国会議員団が山梨リニア関連箇所を初めて視察

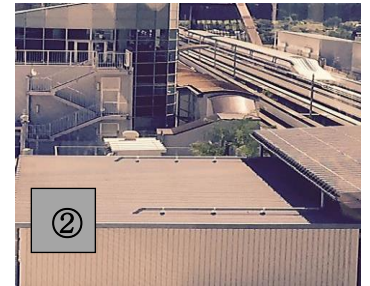


8月31日、公共事業チェック議員の会（会長＝荒井聡衆院議員、事務局長・初鹿明博衆院議員、ともに民進党）所属の9人の超党派衆参国会議員と、別の議員秘書が山梨県内のリニア実験線や山梨県駅予定地、南アルプストンネル坑口など数カ所を視察し、ルート沿線住民からヒアリングを行いました。国会議員が超党派でリニア関連箇所を視察するのは初めてで、異口同音に、「現地を見て、切実な住民の声を聞き、問題の大きさが良く分かった。また、JR東海が住民に対し情報を知らせず、誠意ある説明や補償策を実施していないことが分かった。国会で実態を伝え、

リニア新幹線計画について本格的な審議を行いたい」と話しました。

視察は午前10時すぎの県立リニア見学センター（都留市）からスタートしました。議員の会はあらかじめJR東海に対し見学会の案内と説明を要請しましたが、JR東海は「個別には対応しません」と拒否したという事です。でも7月には報道陣100人を試乗させPRに努めていたのです。JR東海の傲慢な姿勢は目に余ります。一行は見学館でリニアの模擬車両や超電導磁石、山梨県内のリニアのジオラマなどを見学、出発間際にはリニア実験車両の走行を目にしました。「ゴォー！」という走行音の大きさにびっくりしました。実験線は単線なので、供用時、実際にすれ違い走行になれば、騒音や振動はかなり増幅されるものと見られます。

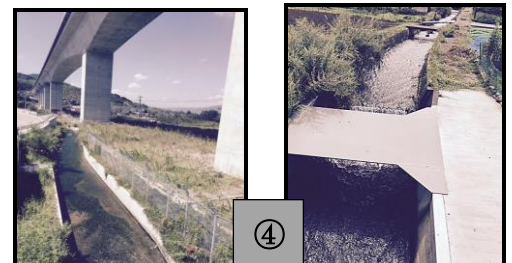
（①は見学センター前の議員、②はリニア実験線駅）



次に、バスで笛吹市御坂町に向いました。ここではブドウを栽培している雨宮融さんから話を聞きました。雨宮さんの自宅や畑の一部は上空にリニア実験線の高架橋があり（写真③）、日照時間が著しく減少し、生活面やブドウ栽培に大きな影響が出ています。日照時間の減少は温度の低下を促すため、池の水温が下がり錦鯉が全滅したと悔しそうに話しました。

日照不足の補償として、JR東海は夫婦二人分の暖房費（燃料代）として30年分を支払っただけで、土地の買い上げはしなかったそうです。雨宮さんの案内で町内上黒駒の、実験線トンネルからの出水現場に向きました。上流8キロの沢や一部集落の井戸が枯れてしまったそうです。出水量は毎分30トンに上り、JR東海は水路をつくり、それを川に流しています。実験線沿線では上黒駒以外でも同じ事態が起きています。（写真④）

3カ所目は、リニアあかり部と山梨県駅立地予定の甲府市大津町、中央市極楽寺付近です。県工業技術センターの上部階から甲府市議会議員の山田厚さんの説明を受けました。センターに隣接する農地にリニア中間駅が予定されていますが、低地にあることで水はけが悪く、地盤も軟弱で、安政地震の際は民家の90%以上が倒壊した歴史もあり、新駅建設には難工事が予想され膨大な費用が必要です。またリニア新駅にかこつけて4万人収容のサッカースタジアムの建設やカジノ誘致などの動きがあり、1時間に1本しか停車しないリニア利用客をあてにしても採算が取れず地元にとって負の遺産になります。





次にセンター北西側に桑畑を所有する内田 学さんが駅から南アルプスに延びるリニアのあかり部の高架橋は高さ30~40mにもなり、景観を破壊する上、住民への日照被害や風害も心配だと訴えました。JR東海は高架橋を低く見せる想像写真を示し、に影響は無いと説明していますが、内田さんの案内でイメージ写真の原版を撮影した現場から見たところ、実際は山並みが見えない高さにつくられるこ ころが分かりました。(写真⑤がイメージ写真撮影地点)

このあと一行はリニア高架ルートにかかる南アルプス市旧甲西町宮川・戸田地区に向い、両地区をリニア高架橋が分断する宮川公会堂で、自治会長ら地元住民から、住民に対するJR東海の傲慢な姿勢や説明不足への怒りと不安の声を聞きました。

超党派の国会議員の訪問は初めてのことで、住民からは「国会で徹底的に議論し、国民にリニアの不当な部分を知らせてほしい」との要請があり、議員からは「皆さんの活動は沿線の人たちにとって大きな葉が身になっている。秋の国会では皆さんの声をしっかりと知らせて行く」との回答がありました。(写真⑥)



このあと、議員団はバスで10分ほど離れた富士川町の山梨県森林総合研究所に向いました。研究所は楡形山の山麓にあり、早川町

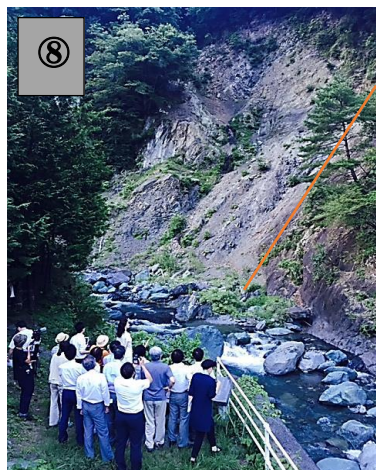
の南アルプストンネルに通じる巨摩山地トンネルの坑口になります。ここでは藤川町会議員の川口正満さんから地質やリニア工事による影響などについて説明を受けました。

前面には甲府盆地が広がり、後方の山裾には緑の森が広がる風光明媚なところです。そこに眼下からリニアの異様なかまぼこ型の高架橋が延びて来て、広場を横切りトンネルに入るとなると、景観は台無しで、豊かな自然環境にも大きなダメージを与えることとなります。議員も「えーっ、こんなところに」と驚いていました。(写真⑦が森林総合研究所の広場)



最後の視察地は早川町の南アルプストンネル坑口工事現場でした。早川町まではバスで1時間ほどかかりましたが、坑口に

近い新倉にある糸魚川・静岡構造線の露頭地を見学しました。山肌に二つの活断層が接している様子を見られるのは珍しく、この断層をリニアのトンネルが横切ることになります。そこから1キロほど早川を遡ったところに南アルプストンネルの山梨県側の坑口がありました。本坑に先だってJR東海は3キロほどトンネルを試掘し、本坑工事にかかっても大丈夫だと説明しているようですが、まず試掘坑口を広げ、南アルプス直下を掘り進むには地下水、環境影響など難関が待ち受けており、残土の処理や工事車両の走行路の拡張なども必要で、そこまでしてリニアをつくる必要があるのかという疑問を新たにしました。(写真⑧は早川町新倉の断層露頭。赤線が断層)



りました。参加された議員は、民進党の初鹿明博(衆)、阿部知子(衆)、日本共産党の穀田恵二(衆)、畑野君枝(衆)、島津幸広(衆)、井上哲士(参)、山添 拓(参)、おおさか維新の石井苗子(参)以上各氏。

9月29日(木) 島村英紀氏(武蔵野学院大学特任教授、地震学者) 迎え講演会開催
「原発・リニアと活断層～熊本地震が教えるもの」、脱原発かわさき市民と共催



時事通信社

4月発生した熊本地震は二つの活断層が連動したもので、50人を超える死者、多くの家屋の倒壊など大きな被害をもたらしました。土砂崩れや道路の寸断などもいたるところで発生し、復旧も道半ばです。交通網では九州自動車道や鉄道などに被害をもたらし、九州新幹線の回送車両が前輪脱線しました。九州には鹿児島県の川内原発(下写真)があり、今回動いた断層も南に延びていることから、運転を

休止すべきだと言う声が強まっています。また、四国の伊方原発も熊本から延びる中央構造線が間近に存在しています。リニア新幹線は時速500kmで多くの活断層を横切ります。



もし直下で今回のような断層型地震が発生した場合、大惨事になる可能性があります。熊本の地震はリニア新幹線の安全性を考える上でも多くの教訓を残しています。私たちリニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会は、熊本地震が残した教訓に学ぼうと、9月29日(木)午後6時15分から川崎市麻生区新百合ヶ丘駅前の麻生市民館大会議室で、島村英紀氏を迎えて講演会を開催します。是非、多くの皆様のご来場をお願いします。

是非、多くの皆様のご来場をお願いします。

ストップ・リニア訴訟第1回審問迫る

今年5月20日東京地裁に提訴した、国交大臣によるリニア工事承認処分取消しを求める行政訴訟の第1回審問が9月23日に迫りました。

当日は午後2時半から約1時間、原告側の冒頭陳述(口頭弁論)が行われ、関島保雄弁護団共同代表ら5人の弁護士と川村晃生原告団長がリニア事業の見直しを求める立場から、意見を陳述する予定です。

審問がある東京地裁103号法廷は、100人規模の傍聴が可能で、これを埋めるために原告、サポーターの皆さんの積極的な参加が必要です。私たちで傍聴席を満員にしましょう。

<9月23日の行動スケジュール>

- 13:45 東京地裁前集合
- 13:50 地裁前で集会
- 14:15 傍聴者多ければ抽選
- 14:20 入廷
- 14:30 審問
- 15:30 記者会見
- 16:00 裁判報告集会
(参議院議員会館101会議室)

9月25日(日) 山梨で立ち木の手入りに協力を!
山梨県中央市の桑畑で行われているリニア立木トラストには東京・神奈川連絡会から17名が参加しています。訴訟に向けて名札の付け替えや剪定作業があります。場所は中央市極楽寺363内田 学さん宅。時間は10時半からです。

ここが問題!リニア新幹線NEWS NO. 46

発行:リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
天野捷一(中原・高津) 090-3910-8173
山本太三雄(宮前) 090-8775-1879
矢沢美也(麻生・多摩) 090-6108-6568